

#ミャンマー国軍の資金源を断て

【オンラインセミナー】2022年3月22日(火)

日本関与のイェタゲン・ガス田からの資金を問う

ガスパイプライン建設で 何が起きていたか

メコン・ウォッチ 木口 由香

本日の内容

- ミャンマーの海上ガス田 ヤダナ
- 最初のガス・パイプライン建設を巡る人権侵害
- ヤダナ・ガスパイプライン訴訟
- タイでの反対運動
- ヤダナからイエタグンへ

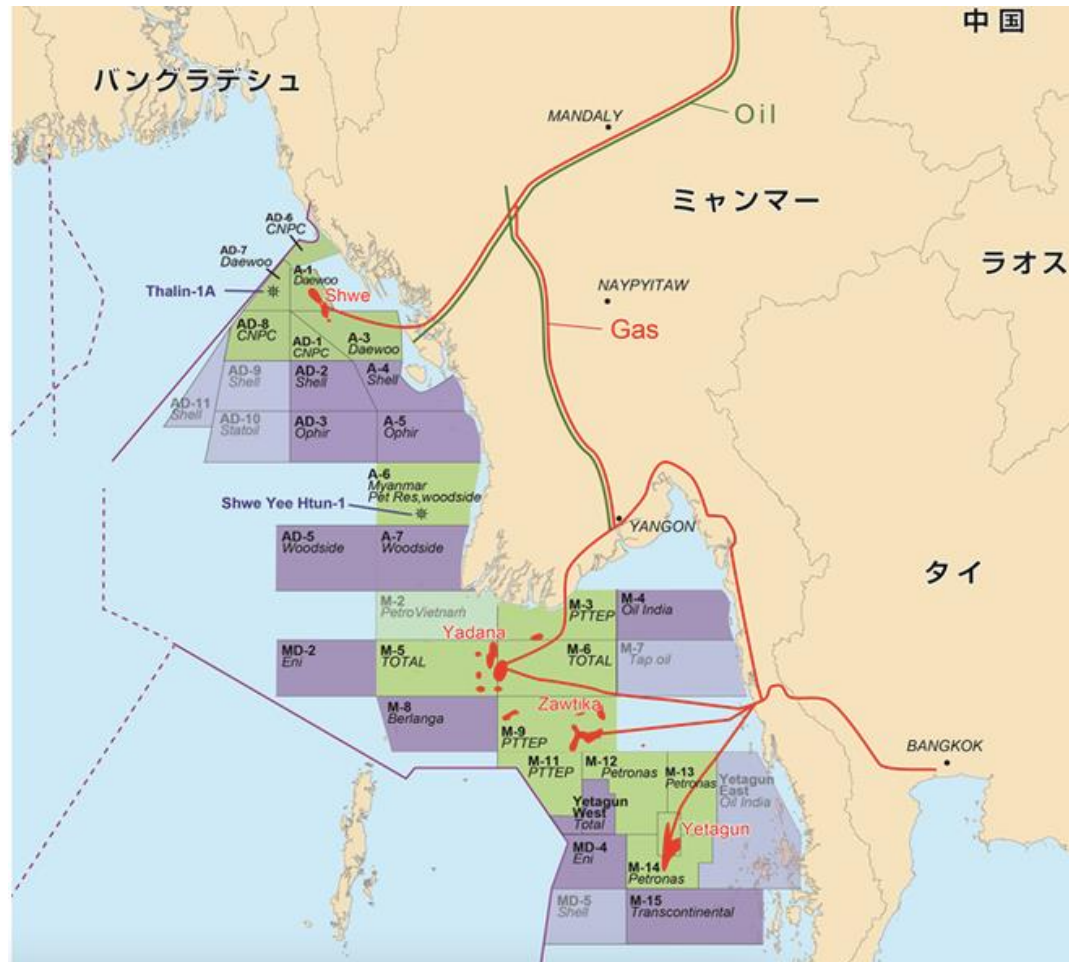
ミャンマーの海上ガス田

ガス田	発見/ 輸出開始	投資企業 (*はオペレーター)
ヤダナ	1983年 1998年	*トタル 31.24% シェブロン(旧ユノカル) 28.26% PTTEP 25.5% 石油ガス公社(MOGE) 15%
イエタゲン	1992年 2000年	*ペトロナス 40.75% JXミャンマー石油 19.4% PTTEP 19.4% MOGE 20.45%
シュエ	2004年 2013年	*ポスコ・デウ 51% ONGC 17% GAIL (India) 8.5% KOGAS 8.5% MOGE 15%
ゾウティカ	2007年 2014年	*PTTEP 19.4% MOGE 20.45%

- ヤダナ、イエタゲン、シュエ、ゾウティカの4大海上ガス田
- 4ヶ所の大規模海上ガス田が重要な収入源
- クーデター前の予想では政府歳入の10%以上を稼ぐとみられていた
(ヤダナの現在の出資比率:
シェブロン41.1016% PTTEP
37.0842% MOGE 21.8142%)

左表: JOGMEC 2018年資料参照

ミャンマーのガス田



- シュエで採掘されたガスの約8割が中国に輸出
- イェタグンは全量、ヤダナとゾウティカは8割の天然ガスをタイに輸出
- タイと中国にパイプラインで陸上輸送されている

出典: JOGMEC

ミャンマー最初のガスパイプライン

ヤダナ・ガスパイプライン

・米国での訴訟で、企業が直接手を下したわけではない人権侵害の、企業の責任が争点に

ヤダナ・ガスパイプライン建設

1990年代前半:

ユノカル社とトタル社は軍事政権と提携し、ガスパイプラインの建設を開始。パイプライン沿いに軍が展開した。調査をしたNGO EarthRights International (ERI) はこれを「高度に軍事化されたパイプライン回廊」と呼んだ

軍のパイプライン「警備」によりパイプライン沿いの村では、強制労働、強制移住、時に死に至るポーターとしての徴用、女性への性暴力が多発



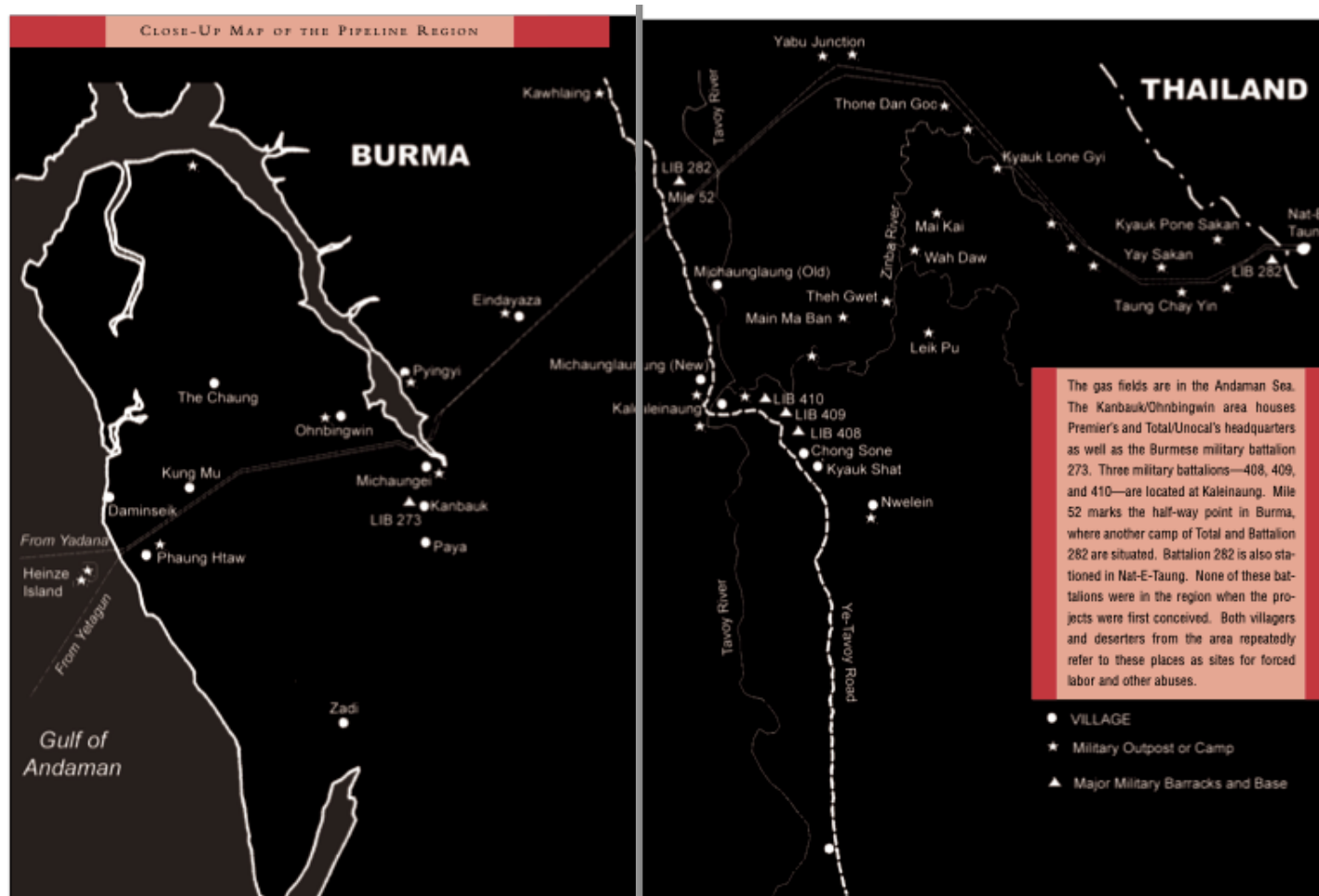
出典: ERI YouTube チャンネル

1996年:ERIと東南アジア情報ネットワーク(SAIN)がヤダナパイプラインに関連する人権・環境問題を集めた「Total Denial(全否定)」を発表

パイプラインが、モン民族、カレン民族等が居住する地域を通過するルートに決まる

少数民族武装勢力の勢力地域も通るため、軍が駐留して「警備」

左図は「Total Denial Continues」より



人権侵害の様相(1)

Total Denial Continuesより

強制労働

- 基地建設を交代制で。朝から晩まで休憩は昼のみ。高齢者も一度に1～2週間
- 食糧なし。寝るところも自作。屋根もなく、病気になる人が多数
- 病気になっても休めず、金を払って免除してもらおう。それが月給分のことも

「・・・夜は、屋根のない土台のようなところで寝ました。労働者が寝るために小屋を作ることさえ許されなかった。皆、ビニールシートや袋を布団の代わりにしたので、マラリアや風邪にかかる人がたくさんいました」

(27ページ)

人権侵害の様相(2)

Total Denial Continuesより

- 1991年～1992年 道路の近くへの強制移住(タイ国境に近い、カレン勢力が強いエリア。パイプラインルート of 南北20マイル以内) 村ごと移住を強いられた
- 移転先では生活できずタイに逃げたりジャングルで隠れて暮らす人も

(44ページ)

- 軍事作戦・パトロールに荷物運び(ポーター)として同行。暴力。地雷、倒木、病気、射殺などで死者多数
- 「それから15分後、別の男性が地雷を踏んで、片足がなくなりました。この男性は皆に、置いていかないでくれと頼みました。」

(60ページ)

人権侵害の様相(3)

Total Denial Continuesより

□ 「(ポーターの)村人がそれ以上進めなくなることがありました。すると将校が下士官にその村人を射殺するよう命じました。私もこの目で3人の村人が死ぬのを見ました。1人は荷物を背負ったまま斜面を飛び降り、もう1人は病気で死に、もう1人は将校に殺されました」

(58-59 ページ)

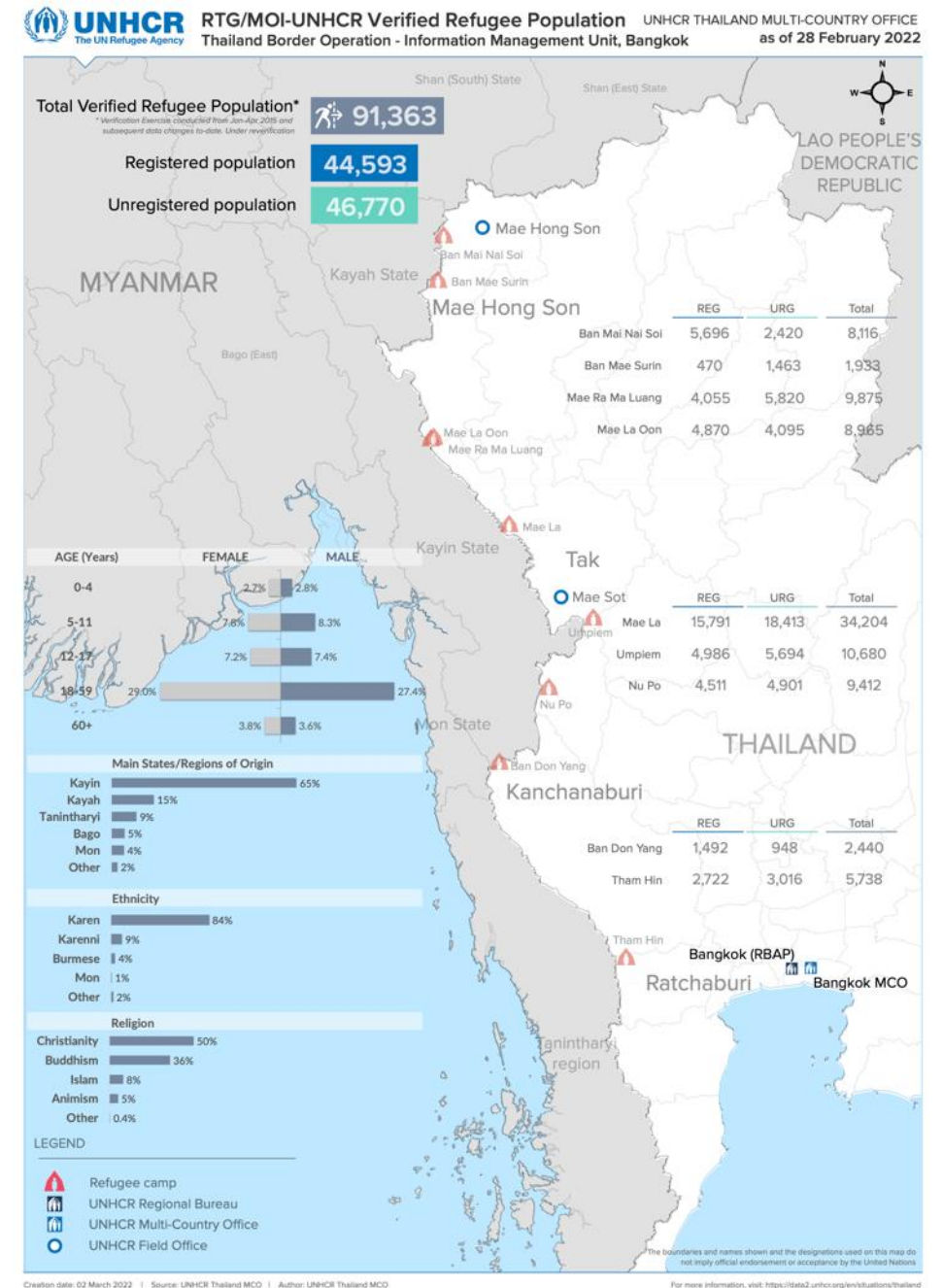
□ 「4人が寝ている時に、隊長が彼らの家に入り、彼女たちをレイプしたのです。そのうち2人はまだ若く、他の2人は10代だった。...隊長が家に入ってきたとき、2人は逃げ出したが、他の2人は、1人がとても若く、姉にしがみついていたので、逃げ出すことができなかった。隊長は彼女をつかみ、妹を家の下に押し込んで、彼女が叫ばないように銃を向け彼女をレイプしたのです」

(112ページ)

現在の状況

タイのミャンマー難民

- 最大のメラ (Mae La) キャンプに34,204名 (3/2現在)
- ミャンマーからの難民91,363名がUNHCRに確認されている



ヤダナ・パイプラインをめぐる訴訟

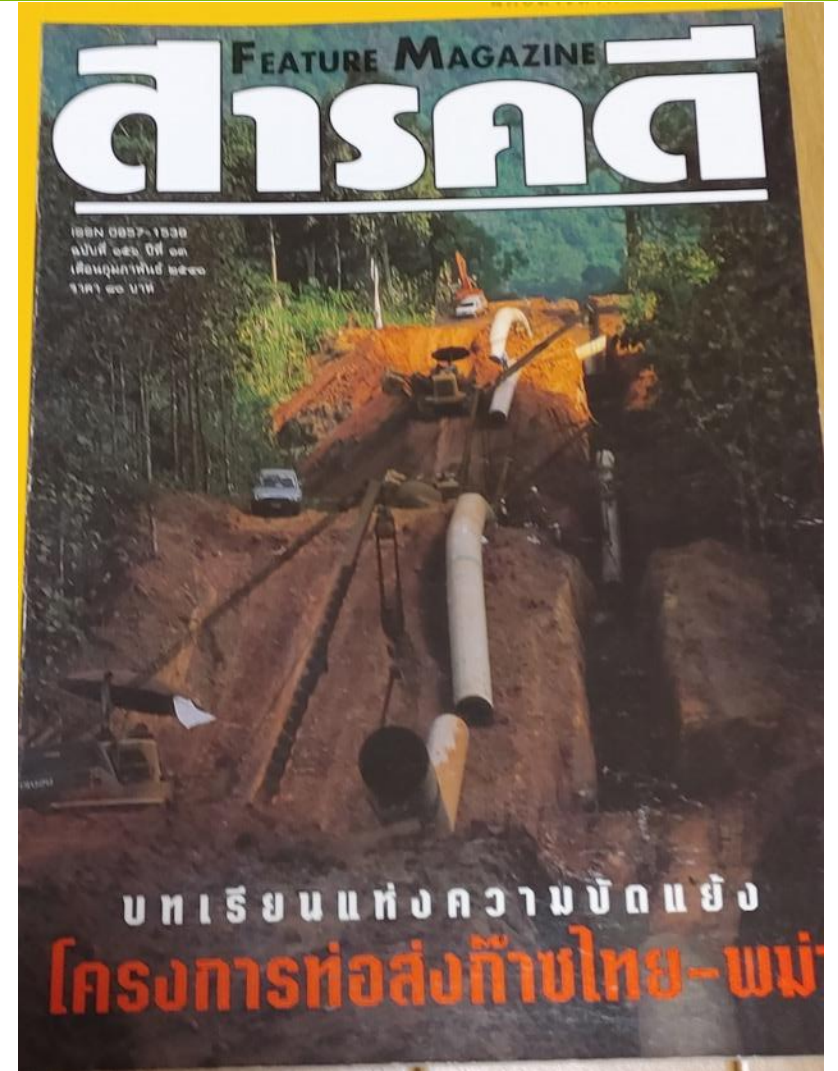
ヤダナ・パイプライン建設による被害者住民が、ユノカルを提訴
「ユノカルに法的責任はあるか」を米国の法廷で争う

- ERIが報告書「Total Denial(全否定)」を発表、1996年住民が匿名で提訴。裁判を通し人権侵害が世界に知れわたる
- 裁判所は「ユノカルは強制労働の実態を知っており、そこから便宜を受けていた」と認定
- 2005年、ユノカルが和解に応じて裁判終了

>この20年以上にわたる市民の運動が、今回のヤダナからの企業撤退につながっている

タイでの環境破壊と住民の反対運動

- 1990年代後半、良好な状態の森林を破壊すること、パイプラインの事故の懸念から、カンチャナブリ県地元住民や環境活動家がコース変更等を求めた
- タイ石油公社（PTT）はそれまで、住民運動の対象になることがなく、イメージがよかった。反対運動にPTTもショックを受けた、との記録もみられる
- ミャンマー軍政とのビジネスにも批判の声があったがこの後タイはミャンマーの天然ガスに発電燃料を大きく依存するようになる



กระแสการคัดค้าน
ทำให้รัฐวิสาหกิจที่มีภาพพจน์ดีอย่าง ปตท. "ซ็อก" และงุนงงไม่น้อย
เพราะ ปตท. ไม่ใช่การไฟฟ้าฝ่ายผลิตหรือกรมชลประทาน
ที่เจอกับการต่อต้านของชนวนการประชาชนมาจนชินชา



การเคลื่อนไหวคัดค้านโครงการท่อก๊าซเริ่มขึ้นตั้งแต่เมื่อปลายปี ๒๕๓๙
และยืดเยื้อมาเป็นเวลากว่าหนึ่งปีแล้ว เหตุผลหลักของกลุ่มผู้คัดค้านคือ
เป็นโครงการที่มีการละเมิดสิทธิมนุษยชน ทำลายสิ่งแวดล้อม และมีความเสี่ยงสูง



"ท่อก๊าซผ่านเมืองกาญจนบุรี สุขสำราญพี่น้องไทย"
"ป่าไม้ใครใคร่รัก ชินมัวพิทักษ์ประเทศอาจบรลัย" คำประกาศจุดยืน
ของกลุ่มผู้สนับสนุนการวางท่อก๊าซ นำโดยชมรมกำนันผู้ใหญ่บ้านจังหวัดกาญจนบุรี
ซึ่งมาชุมนุมแสดงพลังที่ศาลากลางจังหวัดกาญจนบุรี เมื่อวันที่ ๒๓ มกราคม ๒๕๔๑



มาตรการ "ปิดป่า" ถูกนำมาใช้เป็นครั้งแรกในประวัติศาสตร์การเคลื่อนไหว
ด้านสิ่งแวดล้อมของไทย และเป็นครั้งแรกของรัฐวิสาหกิจที่มีภาพพจน์ดีอย่าง ปตท.
เช่นกันที่โครงการของเขาถูกต่อต้านจากประชาชน ผู้อำนวยการฝ่ายประชาสัมพันธ์
ของ ปตท. ถึงกับกล่าวว่า "ถ้ายื้อเวลาได้ ปตท. คงจะให้ประชาชนมีส่วนร่วมตั้งแต่ต้น"

ヤダナからイエタグンへ、日本の関与

- イエタグン・ガス田のパイプラインはヤダナと同じコース
- 実は、三菱商事、丸紅、トーマン(現在の豊田通商)が、ヤダナのミャンマー石油ガス公社(MOGE)の出資分を融資していた(ERIの公開する裁判関連資料より)

2008年日本メディアが、イエタグンに関わる日本の官民に、パイプラインの警護主体や敷設時の国軍による強制労働、米国での裁判について聞いたところ;

- ・日本政府(経済産業省資源エネルギー庁)
「承知していない」
- ・新日本石油(現在のENEOS)
「聞いていない」